

身体障害者芸人として20年以上活動してきた青山氏が、障害者視点から昨今の「世間様と障害者」について思うことを書いています。

相模原の殺傷事件、乙武氏のこと、24時間テレビ、社会進出、などなど。障害者として外へ、社会へ出た時の経験から、タブーや良識の功罪にも触れています。

青山氏は自分でも介護事業所を運営しており、ここでも介護される立場・する立場双方の視点を持っています。

立場が弱い、だから配慮してほしいと訴える、その時に配慮してくれる相手の事情も思い遣る。それだけで、その場しのぎの言い訳のようなおざなりのものではない、お互いに気持ちよく関われる配慮が生まれるのではないかと。これまで信じられてきたタブーや良識は通用しなくなっているのでは、と思えます。(森)

銀河通信

☆☆☆ 星くずのつぶやき 其の11 ☆☆☆

北斗...で取扱中の豆腐がテレビに出たよ!!

by マツコの知らない世界 (3/13放映)

私の人生を
変えた
絶品とうふ
です。



年間1000丁を食べる
豆腐マスター 工藤詩織さん



もめん袋とうふ 800g 440円

この絶品豆腐で作った、油あげ、厚あげ、かまもも、もちろんどれも美味しいです！
ご注文、お待ちしております。

編集後記

久々に通信の原稿作成に時間を使った。そういえば、昔は毎月発行してたっけなあ。あの頃は若かった。夜なべして作ってたっけ。最近では、集中力も低下。老眼で眼鏡なしじゃ字も書けない。20代の娘もいずれはこうなるんだろう。考えるとまた不安だらけ。なんとかせねばと焦るこの頃。それまでやるのが山積み。もう少し頑張ろう。(もう50代半ばの母)

郵便はがき



場合があります。お持ちください。

72

北斗七星の家 真夏のお茶会 ティータイム

4月から指導員の顔ぶれが変わり、“み～んな一緒に顔を合わせる機会を” という
ことで、指導員と共に準備をして、お父さん、お母さんをお茶会に招待しました。



準備編

メニュー決定 ・梅ジュース
・フローズンヨーグルト

いくつか候補の中から、試作をして
夏にぴったり、おいしさばっちり、即決定

梅ジュースは自家製。
6月にみんなで梅狩りに出かけ、
もぎった梅は丁寧に汚れを
拭き取り、梅ジュースに。

お茶会では、水割るか炭酸割りの
どちらかを注文を受け、
順番にそれぞれが
お母さんたちに どうぞ♡



席札を作って
メニューを作って
保護者が部屋に着くと
恥ずかしそうに、
でも嬉しそうに
自分のお母さんを席に案内



子ども達より保護者の方が楽しそう



前月からあーだこーだと、みんなで準備・練習して、
一体感が生まれた感じ

これからもこんな企画をたてたいなあ～

次回もお楽しみに

スプーンで少しずつ入れる慎重派
なんとなく一杯の大まか派



レシピは…

前日の夕方にヨーグルトの
水抜きを始め、翌日水の抜けた
ヨーグルトに砂糖を入れ混ぜる。
タッパーに流し込んだ
ヨーグルトにスプーンで
フレグラをパラパラと散らす
その上に色とりどりの
冷凍フルーツをちりばめ
冷蔵庫へGo!!
3時間冷やすと
フローズンヨーグルトの出来上がり

北斗七星伝統?! の活動 なんでも7...

手作りおやつとお総菜の紹介

日頃みんなが食べてるおやつはどんなかな?

きらきら星編

お迎えの時にほんの少しお時間をいただき、ご試食Time。

mogu.. mogu..

もぐもぐ

みなさんのご感想とALL No1 ランキング??

★ お味・人気・うまい No1

★ 斬新?! 意外? No1

やっぱり
脂肪と糖の
組合せは美味い



とにかくおいしい!!

春巻きの中身はなんと!!
マーブルカステラ&
ふつうのカステラ!!
外はパリパリ
中はフワッフワ!



お母さん
が
King!

今までのおやつの中で
No1 だよ

絶賛!!

by おじいちゃん

★ 指導員イチオシ

ニョッキ
バターしょうゆ味がうまい!!



※ニョッキとは…パスタの一種
小麦粉に卵、牛乳等を加え
小さく丸めて茹でたもの

バターしょうゆ味がうまい!!



★ さわやか No1



見た目涼やか～♡
食べてさわやか～♡

作って
食べた
お母さん
が
King!

by ママ

いちばん星編

ご家庭でお味見していただき、話題にさせていただいたらいいなあ～ 嬉しいなあ～と
ずっと続けている活動です。

こんな感じでした ランキング?? (えー? どーゆーこと?)

☆お味一番 「包まないシューマイ」

☆作るのが楽しかった 「手作りクッキー」

☆簡単食べやすい 「くるくるロールパン」

お母さん達にも大好評

☆凍らせるのが大変 「クリスピーチョコ」

☆ヘルシーメニューといったら 「春雨サラダ」

☆出来上がったなら山盛り～ 「炊き込みチャーハン」

しっかり味ついて
おいしかったよ

さてさて、来月も作ります♪♪ ガンバリます!



アンパンマン、
キティーちゃんの
形に作りました



ピラー使って
皮むくぞー!!

いつも階段であいさつ
だけですものねえ
家ではどんな風に
過ごしてるんですか

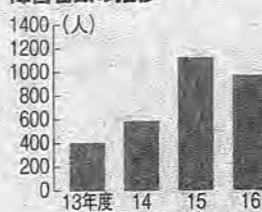
親子並んで座ると..
ハハハ、親子ペア
がわかった!! (笑)

へ～、ふむふむ、そうなんだー!
やっぱり聞いてみないと
分かんないもんですね

働く障害者への虐待最多

前年度比3割増 低賃金・差別発言・暴力

職場での虐待が認められた障害者数の推移



2017年度に職場で雇用主や上司などから虐待された障害者は1308人で、前年度より34.6%増えた。調査を始めた13年度以降で最多となった。厚生労働省が22日発表した。職場でのいじめや嫌がらせへの関心が高まり、労働局などへの通報が増えたためとみられるという。

被害者本人や同僚からの通報などを元に労働局が調査し、虐待があったと認定した人数をまとめた。虐待の内容が別でも多かったのは、障害者であることによる賃金を低くするといった「経済的虐待」で83.5%だった。採用面接で「障害者は800円だ」と言われた障害者が、納得できずに見直しを求めたが改善されないケースがあった。暴言や差別発言などの「心理的虐待」は8.3%で、きちんと仕事をこなしている障害者に「何をやっている」「早くしろ」と怒鳴るといったものがあった。暴力などの「身体的虐待」は5.7%あった。上司から職場の倉庫に閉じ込められた障害者もいた。虐待があった事業所は前年度より2.8%増え、597カ所だった。このうち8割が50人未満の小規模な事業所だった。加害者は20%増の603人で、事業主が8割以上を占めた。厚労省の担当者は「障害者雇用の経験が少なく、障害者が働きやすい職場づくりへの認識が乏しい中小企業もあるようだ」と分析し、啓発活動などを通じて虐待防止を図っていくとしている。(村上晃一)



5日放送の「バリバラ」から。全盲の落語家・桂福点が群馬県に残る防空監視哨を訪れた

よこしまTV 障害者と「役に立つ」

を演奏する視覚障害者は、陸軍病院を訪問した。「いっしょに」「役立つ」と言葉の暴力を受け続けてきた彼らは、お国のため、と従事した。脳性まひの女性の証言が重い。母親の介助が必要だった彼女は空襲から逃げる際、肉親から「母さんをつらい目にあわせるなら死んでしまえ」と罵声を浴びせられた。空襲以前に、家族や社会から切り捨てられるかもしれない恐怖は想像を絶する。

ご意見番の玉木幸則は「戦争のときは、戦争の役に立つか立たないか。今は今で、経済的な活動の役に立つか」と指標の存在を語り、旧優生保護法も、相模原殺傷事件も、さらに杉田水脈衆議院議員の「LGBTの人たちは生産性がない」発言も、根っこは同じと暗に指摘した。30分の放送枠で、昨今の世相まで斬った巧みな構成。安易に使われ過ぎたけど、真の「神回」とはコレでしょ。(ジャーナリスト・中山治美)

「障害を武器に」もがいて前へ



大阪府の大学生 Ten-san(20)

大阪府に住む大学生のTen-san(20)は、自らの発達障害と向き合うなかで生きづらさを感じてきた。今も前を向いてと模索を続けている。

左右の目印は右腕にする腕時計。とっさに漢字が書けず、書き指定の提出物はひらがなだらけ……。幼い頃から「みんなができることが、なぜ自分にはできないんだろう」と悩んだ。小学3のとき、周囲に溶け込めない、級友から悪口を言われる、など悩んで教室の窓から飛び降りようとして、先生に制止された。このとき母親から「学習障害がある」と知らされた。「自分が周りと違うこと」に納得がいき、少し落ち着いていた。周囲とうまくなじめないことで中学でもいじめられたが、友人や、相談に乗ってくれる教師と出会い、前を向くことができた。(兼心ひかり)

ただ、生きづらさは抱えたまま。現在の診断名は注意欠陥・多動性障害(ADHD)など。自分の思い通りにいかない、怒りや悲しみを抑えきれず周囲にぶつけてしまう。「どうすればコミュニケーションをうまくとれるのかわからなくてしんどい」。自分が嫌になっってしまうようなこともある。そんな自分を変えたいともがく。障害者の支援をしたり、Ten-sanの名前で障害に関する考えをネットに発信したり。「障害を武器に」「可能性をクリエイトする」という言葉が好きだ。「無理やりにでも」「こうありたい」という言葉を並べて、自分の障害に向き合いたくすし、前を向こうとしているのかもしれない。「障害者の可能性を広げられるような活動をした」と考えている。(兼心ひかり)

「すべての人が生きやすい社会」を目指す福祉ラッパー

はせがわ たかひろ 長谷川 貴大 さん(27)



午前1時、オールナイトで盛り上がる名古屋・栄のクラブ。グラス片手に腕を振る若者たちに言葉を投げる。「障害があってもなくても、すべての人が生きやすい世界を築いていきたい」

愛知県小牧市出身。高校を中退して不良仲間とつるみ、胸や背中に入れ墨をした。まじめな兄への引け目、厳しい母への反発。「人生をあとにしたい」と思っていた。仲間がみな鑑別所に入り、遊ぶ相手がなくなるとラップを始めた。20歳のとき、求人広告で見た障害者支援施設に連絡すると、中卒の自分を雇ってくれた。知的障害や身体、精神の障害がある人々と過ごして、「俺たちと何も変わらない」と感じた。

障害という言葉の壁に囲まれた「閉ざされた福祉」を「もつと開かれた福祉にしたい」。Lot FALCONの名で活動し、3年前からは毎年、12月の障害者週間にアルバムを発表する。障害者を対象にラップ教室を開く。「ラップは感情をそのまま伝えられる。リズムカルに言葉を吐き出すことで誰もがハッピーになれる」

いまは高齢者施設で働きながら、障害者の作業所を立ち上げる準備を進める。来春には通信制高校も卒業する予定だ。「人生は1回限り。限られた命で何ができるのか」。ラップで社会に訴える。それは自分への問いでもある。

文・大久保真紀 写真・田淵 ② デジタル版に動画

「見た目問題」に苦しむ人たちを支援する

とがわ ひろこ 外川 浩子 さん(51)



原点は怒りだ。20代後半につきあってきた男性は、顔の下半分に皮膚移植の痕があった。赤ちゃんころのやけどが原因だ。並んで歩くと、シロシロ見られ、コンコンと「あの顔見た？」と話す声も聞こえてきた。

「悪いことをしてもいないのに」。視線の暴力を知った。顔の変形、アザ、全身の脱毛。

好奇の目にさらされ、就職や結婚でも差別を受ける。だが、多くは治療の緊急性がなく、機能的な障害がないため、福祉的なサポートはほとんどない。そんな問題を「見た目問題」と名付け、苦しむ人たちを支援してきた。

2006年に立ち上げた「フェイス・マイスタイル」は11年にNPO法人化した。写真展や交流会にとどまらず、地元、東京・墨田の区議会に6月、相談窓口の設置など公的支援を求める陳情書を出した。採択した区議会は、就職差別禁止などの施策を求める意見書を国に出してくれた。

苦しむ人たちは、「他人が話しかけづらいのは仕方がない」と考え、自分から声をかけるといった努力をしている。そんな生き方を、かっこいいと思う。

でも当事者に我慢や適応を強いる社会はおかしい。見た目を重視する風潮を変えたい。「外見が人と違っても生きやすい社会は、誰もが自分らしい顔で自分らしい生き方ができる社会だと思う」からだ。文・岩井建樹 写真・山本和生

ひと 1/2 朝

いっしょに歩こう

NPO 法人 北斗七星情報箱

平成 30年 8月 30日 発行

2018年 夏号

障害者らの悩み 専門家へ

高崎市がSOSセンター



相談しやすい雰囲気をめざすセンター窓口＝高崎市高松町

相談に乗るほか、ハローワークの職員も月2回詰め

開所式で富岡賢治市長は「入りやすい、相談しやすい雰囲気を目指す。どんな相談が多いのかを見極めながら、今後の体制も考えたい」と話した。

毎週火・日曜日の午前10時～午後6時（祝日と年末年始は除く）。面談が原則で、個室も用意されている。問い合わせは、ばるく高崎（電話027・325・0111、FAX027・325・0112、メールsoscenter@city.takasaki.gunma.jp）（日高敏賢）へ。

障害がある人やその家族の不安や悩みに専門職らが対応する高崎市の総合相談窓口「障害者支援SOSセンター」（愛称・ばるく高崎）が8日、同市高松町の市総合保健センターに開設された。全国的にも珍しい自治体直営のワンストップ・サービスで、市は、漠然とした心配事でも気軽に相談を「と呼びかけている。センターでは育児、健康、教育、就労、福祉サービスに関する相談や将来への不安、介護する家族のストレスの問題のほか、薬物やギャンブルなどの依存症、ひきこもりなどにも対応する。そのうえで関係機関や事業所などと綿密に連携し、必要な支援を図る。

スタッフは精神保健福祉士や看護師、社会福祉士、保健師ら市職員12人。市が委託する相談支援事業所の専門員が毎日交代で福祉サービスの利用計画づくりの

障害者働くカフェ 住民後押しで活気

築120年以上の古民家を使った伊勢崎市境の「中沢カフェ」が4年目に入った。障害のある人たちが働く喜びを実感する場というだけでなく、地元住民らもボランティアで支え、互いの交流が深まっている。

古民家は明治20年代に薬局と、3年に亡くなり、遺族が建物として建てられた。家主が2011土地を社会福祉法人「キャッチ



コーヒーをお客さんに提供する佐藤僚晃さん（左）。スタッフが見守る＝いずれも伊勢崎市境

伊勢崎 古民家を改装、地域の拠点に

築120年以上の中沢カフェ。かつて薬局として使われ、格子窓やガラス戸などの建具は当時のままだという。



「触れ合いを通じて気心が知れるようになった。住民同士の交流も進み、地域の拠点になっている」と後援会の発起人の茂木伸司さん（81）。キャッチジャンの藤本久美子さんは「今後はさまざまなイベントを企画し、障害者とともに地域活性化の取り組みを発信したい」と意気込む。

メニューはコーヒーのほか、伊勢崎近郊で摘んだ茶葉を自家発酵させて仕上げた紅茶、手作りのケーキなど。弁当の持ち込みや出前の食事も可能。営業時間は午前10時～午後4時、月曜と火曜は休み。問い合わせは中沢カフェ（0270・74・0668）へ。（上田学）

にゅうすほっくす



民間企業に厳しいルールを課しながら、範を示すべき中央省庁のなんとすさんだことか。

総務省や農林水産省など複数の省庁で、法律で義務づけられた障害者の雇用割合を過大に算出し、「水増し」していた疑いが出ていた。厚生労働省の指針に定められた障害者手帳や医師の診断書などによる確認を怠り、対象外の人を算入していた可能性があるという。

自主的に再点検した地方自治体でも、同様の問題が次々と見つかった。ずさんな算定は公的機関で横行していたとみるべきだろう。

厚生労働省は全庁を対象に調査し、近く結果を公表する。調査対象を自治体にも広げ、すみやかに内容を解明するべきだ。同時に再発防止策も講じなければならない。

国や自治体に一定割合以上の

障害者の雇用を求める障害者雇用率の制度ができたのは1960年。76年には民間企業にも義務づけられた。心身に何らかの障害を持つ人たちの働く権利を保障し、それぞれの人が能力を発揮し、生きがいを持って働ける社会を目指す。そんな理念に根ざす制度だ。

とりわけ国の機関や自治体には、民間企業より高い目標が設定されている。率先して取り組み姿勢を示すためだ。

厚生労働省は、昨年の国の行政機関の平均雇用率は2・49%で、当時の法定雇用率2・3%を大半が達成していると公表していた。ところがその数字が怪しくなったのだ。共生社会の理念を軽んじた行為と言っほかない。なぜ中央省庁でずさんな算定がまかり通ったのか。民間企業との運用の違いも一因だろう。従業員100人以上の企業が

法定雇用率に達しない場合、その人数に応じて納付金を課せられる。算定が正しく行われているか、定期的な訪問検査もある。こうした仕組みは、公的機関にはない。チェック体制の在り方を見直すべきだ。

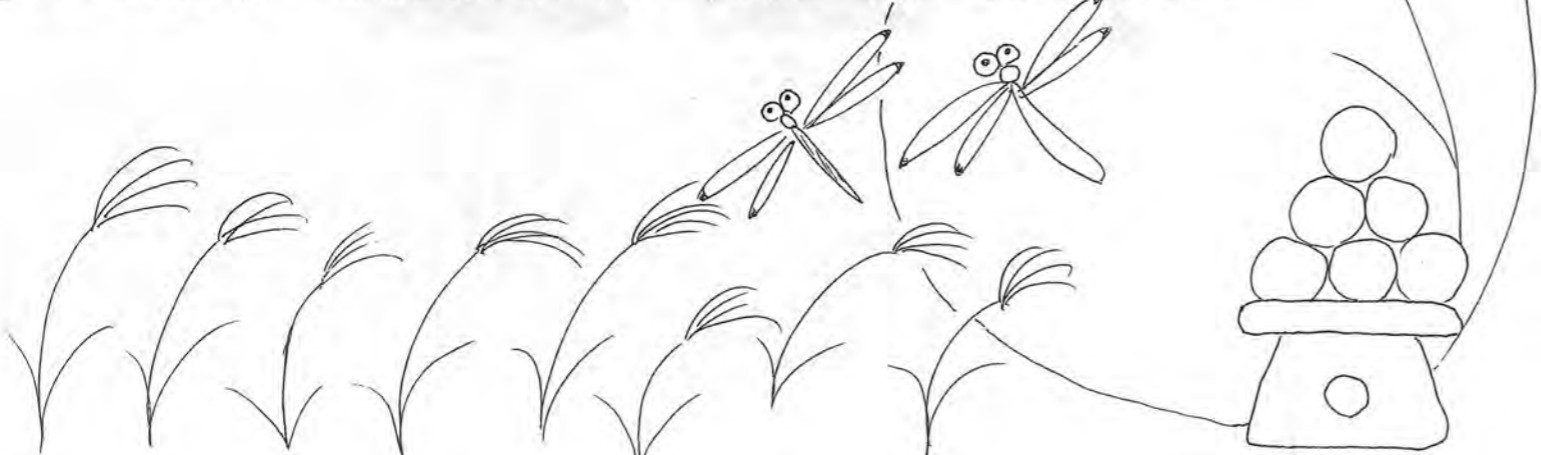
障害者の法定雇用率をめぐるのは、2014年に厚生労働省所管の独立行政法人で、障害者を多く雇ったように装う虚偽報告が発覚した。厚生労働省はこれを受けて独立行政法人の検査を進めているが、国や自治体は対象から外した。身内への甘さにはかならない。

国や自治体の法定雇用率はこの4月から2・5%に引き上げられた。いくら目標を掲げても、実態把握もできていないのでは絵に描いた餅だ。

徹底的に調べ、悪質な行為には厳正に対処する。そのことなくして信頼回復はない。

信頼裏切る水増し疑惑

2018・8・23



おなかの子がダウン症 揺れる選択

産むか産まないか。おなかの赤ちゃんの状態を知る「出生前診断」を受け、思いがけず重い選択を迫られるケースもあります。



家族って「産む」編②

出生前診断 2人目は「産む」、夫婦で決意

羊水を取る「羊水検査」にさらされる決断をした。8月、妊娠21週で中絶した。男の子は4.45kg、24ヶ月に育っていた。女性は自宅の仏壇の前で、毎日泣き続けた。「何もないでいい」と考えるようになった。

1人目を諦めたからこそ

2015年夏、東京都内の産科医院で、妊娠11週になった第1子のエコー(超音波)検査を受けた女性(37)は、医師から告げられた言葉に混乱した。「むくみがあるのでお子さんはダウン症の可能性が高い」。当時34歳。おなかの中で育っていくわが子を、検査で知るのを楽しみにしていた。ダウン症の可能性を伝えられるとは思っていませんでした。社中と呼ばれた会社員の夫(39)も不安になった。

医師は、まだ可能性の段階で、おなかに針をさして

「産む」という2人の決意は揺らがないが、医師の勧めで、採血で高精度に調べられる「新型出生前診断」(NIPT)を受けました。結果は陽性。さらに羊水検査でダウン症だと分かった。ただ、検査結果から、ダウン症になったのは遺伝によるものではなく、偶然が続いた非常に珍しいケースだと説明された。

夫は「子どもの将来への不安は、深く考えないようにした。妻の心と体にこれ以上の負担をかけるわけにもいかない」と覚悟を決めた。女性は「2度続いたこと

年が明け、女性の妊娠がわかった。そして、第1子と同じ産科医院で受けた妊娠11週のエコー検査でむくみがみつかり、再び、医師からダウン症の可能性を指摘された。

夫が仕事から帰宅すると、長女は声を出して笑顔で迎えてくれる。「本当に癒やされる」と夫。女性は「普段はなかなか笑わない夫が、娘が笑うと笑顔になる」。3人での外出も家族の楽しみだ。

そして、ダウン症やほかの障害がある子の家族とのつながりが生まれた。助け合いながら、子育てをしている。女性は同じように悩んだ経験があるからこそ、親身になってくれる。「食事や運動の仕方を学べる訓練や、ジュエチャーでコミュニケーションできる」「ベビーサイン」の指導など、障害のある子が生活しやすいためのサポートも発

その姿に夫は胸を痛めた。「もし、また子どもを授かったら、今度は必ず産もう。もう羊水検査は受けられないでいい」と考えるようになった。



夫と長女がじゃれ合う姿を見つめる女性(右)

「産む」という2人の決意は揺らがないが、医師の勧めで、採血で高精度に調べられる「新型出生前診断」(NIPT)を受けました。結果は陽性。さらに羊水検査でダウン症だと分かった。ただ、検査結果から、ダウン症になったのは遺伝によるものではなく、偶然が続いた非常に珍しいケースだと説明された。

夫は「子どもの将来への不安は、深く考えないようにした。妻の心と体にこれ以上の負担をかけるわけにもいかない」と覚悟を決めた。女性は「2度続いたこと

その姿に夫は胸を痛めた。「もし、また子どもを授かったら、今度は必ず産もう。もう羊水検査は受けられないでいい」と考えるようになった。

受検者増「高齢妊娠・認知度の高まり影響」

国立成育医療研究センター(東京)の左合治彦・副院長は「高齢妊娠の増加と検査の認知度の高まりから、出生前診断を受ける人は増えている」と話す。左合さんらの推計によると、出産した妊婦で何らかの出生前診断を受けた人の割合は2008年の3%から16年には7%に増えた。

出生前診断のうち、新型出生前診断(NIPT)や母体血清マーカー検査はあくまで確率を判定する。確定には羊水検査などの検査が必要だ。

母体血清マーカー検査について、国の専門家は、十分に理解せずを受けて混乱したりする恐れがあるため、「医師は妊婦に検査の必要性はない」としている。

NIPTについても、関係学会が指針で「医師は積極的に知らせる必要はない」とする。一方で、相談されたら検査目的や予想される結果、その後の選択肢などを十分に説明し、誰でも生まれつき障害を持つ可能性があることを伝え、質問に納得いくまで答えるよう求め

他人の評価気にせず。プラスになること最優先

発達障害を公表しているモデル・俳優の栗原類さん(23)の母、泉さん(48)が子育ての経験をつづけた手記「ブレない子育て」(KADOKAWA)を出版しました。類さんと向き合った日々や、親としての心構えを記しています。泉さんは「接し方の一つのヒントになれば」と語ります。

泉さんはシングルマザーとして通訳などの仕事をしながら、類さんを育ててきた。類さんが発達障害と診断されたのは8歳のとき。当時住んでいた米国の小学校で可能性を指摘され、市の教育委員会のテストを受けて分かった。

泉さん自身も、その際に発達障害と指摘された。自覚はなかったが、振り返ると、忘れ物が多かったり、集団行動が苦手だったりした。ただ、社会経験を重ね、日常生活で困ることはなかったという。

一方、発達障害は人によって症状や程度が異なる。「私は落ち着きがないタイプだが、類はじっとしているタイプ。症状の違いを理解することから始めました」

泉さんと違って、類さんには「記憶力の弱さ」があった。数分前に聞いたことも忘れてしまう。社会常識をいくら教わっても覚えられない。小学校高学年で日本に帰国してからも、暗記中心の勉強に戸惑うことが多かった。

周囲から「類くんだけ出来ない」と他の子と比較されることも少なくなかった。泉さんは「子育ては他人の人からどう評価されるか気にしている」と成立しないことが多い。子供にとって何がプラスになるかを最優先に考えてきました」と話す。

勉強もしてほしいと思ってはいたが、塾通いなど「みんなもやっているから」と周囲に流されず、類さんのキャリアを考えてモデルの仕事を優先。また、見聞を広めてあげたいと、20カ国以上を一緒に旅行した。見たことのない場所に行き、感動を共有することが親子の信頼関係を築くことにもなると思ったからだ。

類さんがゲームやインターネットの動画投稿に没頭した時も禁止にはしなかった。勉強が手つかずになる心配もあったが、あらゆる国や世代の人と交流でき、プラスになると考えた。「禁止すれば心に残る体験もつぶすことになる。一緒に勉強し、危ないことがないように見守るのが親の務めだと思えます」

類さんと今も一緒に暮らし、身の回りのことをサポートする。泉さんは「自立できるまでには到達していないが、類も自分の特性にどう対応するかコツをつかみ、成長している実感はある。一人暮らしをしたいと言っているので応援していきたい」。(毛利光輝)

栗原類さんこう育てた

発達障害に限らず「ヒントに」母が手記出版

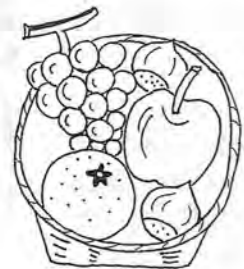


栗原類さんと母親の泉さん。中学校の入学式で「ブレない子育て」KADOKAWA

「産む」という2人の決意は揺らがないが、医師の勧めで、採血で高精度に調べられる「新型出生前診断」(NIPT)を受けました。結果は陽性。さらに羊水検査でダウン症だと分かった。ただ、検査結果から、ダウン症になったのは遺伝によるものではなく、偶然が続いた非常に珍しいケースだと説明された。

夫は「子どもの将来への不安は、深く考えないようにした。妻の心と体にこれ以上の負担をかけるわけにもいかない」と覚悟を決めた。女性は「2度続いたこと

その姿に夫は胸を痛めた。「もし、また子どもを授かったら、今度は必ず産もう。もう羊水検査は受けられないでいい」と考えるようになった。



にゅうすぽくす

NPO 法人
「北斗七星」情報箱

平成30年8月30日発行

No.2

2018年
夏号



障害者の消費被害防ごう



障害者が経験したトラブルについて、意見交換する施設関係者ら一岡山県で昨年11月（消費者庁提供）

知的障害や精神障害のある人が、判断力不足から不必要な買い物をしてしまったり、不当な契約を結ばされたりするトラブルが後を絶たない。障害者が安心して消費活動をするために、どうしたらよいのだろうか。

1年ほど前のことだ。軽度の知的障害を持つ西日本の40代女性は、一人でショッピングセンターに出かけた。ウォーターサーバーの販売コーナーで販売員から「キャンペーン中でお得」と説明を受け、納得して契約した。業者が毎月水を届けるシステムで、毎月数千円の支出になる。女性は一人暮らし。障害年金などで生活しており、経済的に余裕があるわけではなかった。

「知的障害のある人は、人の話を信じやすい傾向があります。新しいものへの興味もあり、収入と支出のバランスを考えずに契約してしまったようです」。対応にあたった障害者支援団体・愛育会地域生活総合支援センター（徳島県松茂町）の大西克和次長は、こう説明する。このケースでは、大西次長らが女性と話し合い、生活に必要性が低いことを女性も認識し、契約から2〜3カ月後に解約した。大

西次長は「詐欺的な契約はものちろん、本人が納得しているも、経済的な負担をきちんと理解しておらず、生活が困窮してしまう場合があります」と指摘する。

●「買い物好き」8割

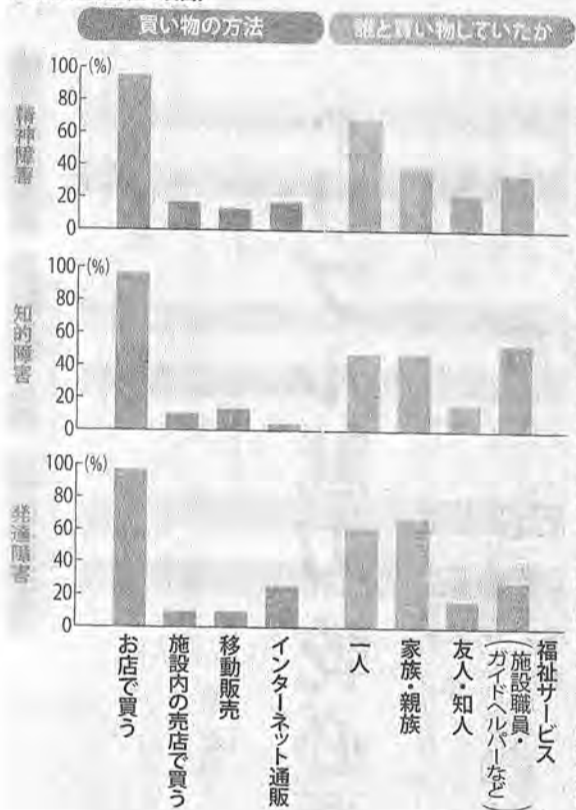
消費者庁は今年3月、知的障害、発達障害者（重度・軽度）に対し、普段の買い物方法や頻度、トラブルに遭った経験などを聞いた初のアンケート調査の結果を発表した。徳島県と岡山県の128障害者施設の利用者と支援者、それぞれ約1900人から回答を得た。そのうえで、利用者と支援者がそろって回答した1647組を集計した。

●トラブル自覚せず

オフィスは昨年11月、アンケート調査に伴い、対象施設の関係者が具体的な事例や取り組みを話し合う意見交換会を実施。訪問販売で不要な布団を買っていたり、通信販売で知らないうちに定期購入を続けていたりした事例が報告され、多くは障害者本人にトラブルの自覚がなかった。矢吹さんは「自ら周囲に相談す

障害者の消費行動に関する調査

（複数回答、上位4項目）



る人は少なく、被害が顕在化しづらいという課題も浮かびました。まずは周囲の人が障害者の消費行動を理解し、注意深くトラブルに気付くことが大切」と強調する。

近年は特に、インターネットを通じたトラブルの増加が指摘されている。今回の調査でも、精神障害者の17.3%、知的障害者の4.2%、発達障害者の24.8%が、ネット通販を利用していた。さらに、買い物に限らず「ネットを利用している」と答えた人は、精神障害者の37.5%、知的障害者の23.0%、発達障害者の62.4%に上った。

「トラブルを防ぐために、例えば障害者のインターネットの使用を全面的に制限したり、一人で外出をさせないようにはしたくない。障害者問題に詳しい成蹊大学法学部の吾妻聡教授（法社会学）は、こう指摘する。まずは、障害者の自立を妨げる「障壁」は障害者本人ではなく、周囲の環境にこそあるのだということ、すべての人が共有することが重要だという。

具体的対策としては、本人の日常的な消費活動を尊重することを原則としつつ、財産管理や法律行為を代理する成年後見人の適切な活用など、身近なサポートを充実させていくこと。また、消費者に対し、分かりやすく丁寧な説明を徹底し、きちんとした同意の得られていない契約を規制するなど、売る側にも変化が求められている。

吾妻教授は「判断力不足の評価や一律の規制は難しく、社会全体で模索が必要で」と話している。【曹美河】

怪しい迷惑メールの文面を信じて、多額の詐欺被害に遭うケースなども少なくない。●尊重し、サポートを



にゅうすぽんす

まず知る ともに生きるために

知らなかったなあ。そうなんだ……。一つのエピソードを紹介しよう。その人には中度の知的障害があった。あるとき、ひとりの車の窓が開いて、三十円が見えたので取ってしまった。持ち主が戻ってきたので取りつけたけれど、その人は逃げもせずニコニコしている。通報され、再犯だったので三年間の懲役となった。

ただ、この人には悪意のかけらもない。行くべきは刑務所ではなく、しかるべき福祉施設だろう。でも、刑務所にはそういう人が大勢いる。

受刑者は作業をしなければならぬけれど、知的障害、精神障害、認知症などで作業できない人たちは刑務所の中でも別の場所に集められる。刑務官はそんな受刑者たちを処罰するのではなく、むしろ保護し守ろうとしているという。刑務所が福祉施設化している、と山本さんは言う。

山本 讓司〈著〉
刑務所しか居場所がない人たち
学校では教えてくれない、障害と犯罪の話



やまもと・じょうじ 62年生まれ。元衆議院議員。秘書給与詐取で実刑。『獄中密記』（新潮ドキュメント賞）など。

これは福祉の問題であると同時に、私たちの問題なのだ。だからこそ、まず知ることから始めねば。

評・野矢 茂樹

立正大学教授 哲学



No.2

2018年 夏号

同伴者も入場料払うべきですか

NPO職員 相羽 大輔

(愛知県 36)

東京近郊のテーマパークで障がいのある人となない人の交流イベントを行っています。参加された方から「障がいのある人にとってヘルパーや通訳者は本人の体の一部のようなものなのに、入園料を払わなければならない。なぜか」と相談されました。「確かにそうだと思います、問い合わせてみました。その結果、「同伴者への割引や優待などの対応は行っておりません。同伴者も『障がい者の体の一部』ではなく、やはりひ

とりの大事なお客様であることに変わりはないと考えております」との回答でした。障害者差別解消法や2020年の東京五輪・パラリンピックで目標として掲げられている「心のバリアフリー」は、公平な社会の実現を目指すものです。「夢の国」ですら理解がないのかと落胆しました。ヘルパーは障がいのある方の支援のために来場します。客として楽しみに来るのであればありません。障がいのある方がテーマパークを楽しむには倍のお金がかかると思うと、公平な社会は遠いと思ってしまう。

サービスの形をさまざまに

主婦 三宅 みえ子

(神奈川県 66)

障がい者施設で支援のお手伝いをしていきます。私もテーマパークに同行したことがありますが、映画館などでは当たり前前の料金割引がないと窓口で知り、少し残念な気持ちになりました。でも、障害者手帳を提示すると、通常は長時間並ばなくてはならないアトラクションでも、別の場所で待機できるカードを発行してもらえました。他にも地図

を広げていると声をかけてくださった。椅子を用意しましょうかと言った。ださったり、スタッフの方にさまざまな場面で助けていただきました。苦手な乗り物に同乗するなど大変な思いもしましたが、一人の人間(客)として楽しい時間もありました。その利用者さんは「お金はかかるけど楽しかった」と笑顔でした。それぞれの施設にそれぞれの考え方があります。サービスの形はさまざまであっていいと思います。

共に楽しむ一人として払おう

主婦 日向 節子

(千葉県 62)

私は、そのテーマパークが「同伴者も『障がい者の体の一部』ではなく、やはりひとりの大事なお客様であることに変わりはないと考えております」と答えたことに、ホッとしました。自分が障がいのある人の体の一部になりたいとがんばっても、願っても、折っても、体の一部にはなることはできないという現実があると思うからです。

片意地を張り、みけんにしわを寄せ、歯をくいしばって「私はここに楽しみたい。来たわけではない」なんて言わないで。同伴者も障がい者さんといっしょになつて笑いなさい。「楽しいね」「うれしいね」と喜び、互いに「あなたといっしょに来ると楽しい」「またいっしょに来ようね」と言えるように楽しんだ方がいいと思うのです。障がい者も同伴者も「公平」な一人として、ちゃんと入場料は払い、しっかりと楽しむべきだと思います。

垣根越えた交流に割引適用して

無職 太田 俊彦

(神奈川県 71)

私は「夢の国」の回答が正しいと思えます。交流イベントに参加された方は、ヘルパーであれ誰であれ、「障がいのある方の体の一部」ではありません。理解のある一人の個人として参加されているのではないのでしょうか。サポートする方を伴って外出する方が、同伴者をもしご自分の体の一部と考えておられるのであれば、その発想こそ公平な社会の実現を

妨げているのではないのでしょうか。そう考えると「入園料を払わなければならぬ」ことに疑問はないと思えます。しかしながら、テーマパークの入園料は決して安くはありません。料金負担が支障になって、参加を見送る方もいらっしゃるのではないのでしょうか。「夢の国」には、様々な障害者を持たれた方と健常者の垣根を越えた交流が一回でも多く持てるように、入園料割引などの考慮をお願いしたいものです。

障害者本人に「一人前」の配慮を

会社役員 山内 達仁

(静岡県 54)

私は障害者の移動支援事業をしています。ガイドヘルパーとして障害者手帳を持つ人たちがあちこちに出かけています。障害者の入場料が無料や割引となる施設で、順番などの配慮を受けていると「無料なのにそこまでする必要はないでしょ」と言われたり、身体的障害のない人と一緒の時「歩けるのに割引を受けたくない」と言われたりします。

無料や割引の扱いは、障害者の収入やヘルパーなど同伴者を必要とすることに對する考慮でしょう。しかし、割引を受けることが、障害者を一人前扱いすることを阻害する原因であるなら、障害者本人は通常料金、同伴者を割引や無料扱いにすることを提案します。障害者本人が社会の中で一人の人間として認識されることが大切だと思います。誰もを一人前と認識して受け入れるのが、共生社会ではないのでしょうか。

現状では、本来スタッフがケアやサポートを提供すべきところを、障害者が手配した介助者が担っているのだから、その分の料金を遊園地が割引するという発想は、私には極めて自然に思えます。

えることは、目指すべき理想ですし、そうなれば割引制度も不要でしょう。しかし、障害は多種多様で、個人差も大きい。全ての障害者に対して、介助者なしでOKということは原理的に不可能です。

す。生命に関わる場合もあり、同伴しない選択は命がけです。確かに、遊園地が様々な条件を抱えた障害者に適切な医療ケアや各種のサポートを提供し、「お一人でご来場してもスタッフが全てサポートします」と言

同伴なしOK理想だが

福島智・東京大教授(障害学) 介助を必要とする障害者にとって、介助者は切っても切れない不可欠の存在で



平成30年8月30日発行



NPO法人 北斗七星情報箱

2018年 夏号

No. 3

私の向日葵が教えてくれたこと

朝日 高校生 関根 真優 (神奈川県 17)

私は去年の夏、妹を亡くした。妹は生まれながらに障がいを持っていたが、顔をくしゃくしゃにして楽しそうに笑う姿は向日葵のようだった。私は幼い頃から、妹を見る人の目が気になっていた。「こっちを見ないで」「放っておいて」といつも思っていた。重い障がい、車いすで移動する妹といると、冷たく、珍しいものを見る視線を向けられていると感じ、恥ずかしいと

さえ思うことがあった。可哀想だと言われることもあり、みんな嫌いだと思った。でも今、そんな人の気持ちも理解できる。確かに、妹はチューブにつながれていたため少し特徴があったのは事実だし、見られるのも仕方ない。だが、周りを見るとどうだろう。顔、体形、性格。人にはみな少しずつ違う。人にはそれぞれ特徴があり、だからこそ個性が生まれる。たとえ障がいがあってもそれも含めて自分なのだ。

「命の選択」本当に正しいのか

高校生 富田 彩花 (神奈川県 17)

出生前診断で、胎児に染色体や遺伝子の異常があるかを診断できると聞いた。結果を知り、人工妊娠中絶の手術を受ける人も少なくない。「命の選択」ができるようになったとも言える。障がいを抱えた人が身近にいる私は疑問に思った。なんだか障がい児は生まれてくる価値がないと言われているみたいだった。胎児に大きな病気があるかを知ることが大切なことだ。でも、出生後に障がいを持つ病気が中絶するのは違うとも思う。仮定の話だが、もし皆がそうすれば、障がいのある子に接していると、純粹で優しい子が多く、社会の役に立とうと彼らにしかできないことを探していた。そんな彼らのチャンス奪うのではなく、彼らに対する理解を私たちが深めるべきだと思つた。誰だって存在価値はあるのだから。「命の選択は、本当に正しいのか。私は出生前診断のあり方と私たちの考えを、もう一度見直すべきではないかと思う。」

特別支援学校で生徒に教わった

特別支援学校講師
君村 聡
(福岡県 52)

今春から特別支援学校で働いている。これまで中学、高校、大学などで教育に携わってきたが、今回も様々なカルチャーショックを感じながら多くのことを学んでいる。

特に感心させられたのは生徒たちの助け合う姿である。生徒はおのおの障がいと違いがあるものの、それぞれができることで助け合っている。彼らの心の温かさをとても新鮮に感じる。障

がいのある生徒への教育初心者の私にも、いろいろなアドバイスをしてくれる。「先生、Aくんは自分で○○ができるから、自分でやるようにさせた方がいいよ」など、助け合いと言っても「依存型」ではなく、「自立型」のサポートを自然に促してくれる。

保護者から「生徒が助け合う姿を見て、安心して子どもを学校へ行かせることができる」という声も聞いた。生徒らを通して支え合い教え合っていることが、真の意味でもともに学ぶことにつながるのだと教えられた。

にゅうすほくす

2018年
夏号

No.3

障害児も共に学べる学校に

① 農業 川上 恒夫
(長野県 70)

私には最重度の障害がある10歳の孫がいて、特別支援学校に学校のバスで通学しています。通学仲間の中には自己表現や主張がうまくできないだけで、いわゆる知的障害に当てはまらないのではと思う子もいます。保護者に尋ねると、普通学校ではその子への特別な支援ができないので、支援学校の方がいいと言われたとのこと。

現在、障害の有無で区別されず、教師が一人ひとりに丁寧に向き合い、どんな子も共に学び合う「インクルーシブ教育」が推進されています。私は、普通

学校の特別支援学級をより充実させることが、どの子にとっても意味ある学びの場を生み出すのではと考えます。

私の孫は、学習塾と音楽教室に通い、内容は違いますが、健常者と同じ場で学んでいます。先生方の理解もあり、障害者と健常者が交流しながら互いに認め合い、成長できる場が現に存在できているのです。孫は健常者の子どもから多くの刺激を受け、健常者の子どもたちは孫との関わりから健常者同士の関係だけでは得られない学びを得ています。こうした学び合いが、義務教育においてなぜ広がり、いかないのか疑問を感じます。



温かい言葉もらって娘が笑った

無職 山口 美絵
(神奈川県 49)

わが家には肢体不自由で高校3年の娘がいます。知的障害もあり1人では食事でもできず話もできませんが、スクールバスで特別支援学校へ通学しています。

「おはよう」。バスの運転手さんと2人の介助員さんがリフトで娘を乗せてくれます。大変な作業です。「では行って

きますね」の言葉にほっとします。2月の寒い日のこと。介助員さんが「バスは暖かいよ。早く乗ろうね」と声をかけてくれました。その時娘がニコッと笑ったのです。精いっぱいのお礼だったのでしよう。暖房の暖かさだけでなく、バスのスタッフの方々の温かさで包まれているのだと思いました。卒業まで1年足らず。元気で通学してほしいです。

「障害」に違和感 ころ呼んでは？

訪問介護員 田中 恵子
(千葉県 59)

視覚障害者の方の外出をサポートするガイドヘルパーの仕事について3年目。以前は気にかけることもなかった「障害者」という言葉に違和感を覚え、今もすーっと、適切な言葉を探している。

「障」「害」。意味にも響きにも愛がないように思える。多数派に便利なよう

に構築された社会で、今ある五感を最大限に活用し、目的を達成していく彼ら。利便性に慣れて感覚が鈍くなった自分に比べ、むしろ自由であるとさえ感じる。例えば、「要支援者」という呼び方はどうだろう。彼らを「支えている」と思いきや、実は「支えられている」。そんなやさしい世の中になっっていくと予感がしませんか？

弟の背中 たくましく

朝8時半。「いつてきま

す」と母の仏壇に向かって手を挙げ、障がい者支援事業所へ通い始めて1年になるダウン症の弟。零下10度の朝が続き、夫に「寒いから休んだら？」と冗談を言われても、「行く!!」と言

昨年4月に事業所に通い出した翌朝、「無理！ 行かない!!」と言う弟をなだめながら通わせたのがウソのよう。弁当を持って通うという経験がなかったので、次第にビクニック気分

で通うようになったのは、職員さんたちの支援のおかげで感謝している。今では一人で送迎場所と家を往復し、朝は私が時間差で出ても、弟の背中にはなかなか近づけない。1人では生きていけない弟だけど、その背中はたくましく見え、感慨深い。

父は弟がふびんだと嘆くけれど、お母さん、息子の背中、どう見えますか。

福岡県田村市
安藤 明子
パート 56歳

最低賃金さらにアップを望む

② 介護福祉士 校條 清
(埼玉県 58)

厚生労働省の中央最低賃金審議会の小委員会が、2018年度は最低賃金を全国加重平均で26円引き上げる方向でまとめたことを知り、「あの方々」の顔が浮かんだ。

私は昨年、埼玉県内にある障がいをもつ方の就労継続支援A型事業所で、数日間指導員の体験を行った。平均20〜30代の利用者が必要所と雇用契約を結び、県の時給の最低額をもらって働いていた。

仕事ぶりは実に真面目で私語は全くなかった。配水管の会社から管にラバーを巻く仕事を請

け負っていたが、わずかのすぎ間やしむも出さずきれいに仕上げていた。「きちんとやらないと商品にならないから」と言っていたが、その中に「仕事を回してもらえなくなる」という思いが含まれていると感じた。

工場では「ここにいる間は工場の一員だから」と真剣な表情で立ち作業を行っていた。今日も猛暑の中を事業所に通い、工場で汗を流しているだろう。

わずか26円のアップだが「頑張ってきてよかった」と喜ばれているかもしれない。家庭を持つ方もいる。最低でも1カ月15万円の基本給が必要だろう。さらなるアップを切望する。

